

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

町長が出席

資料の説明

- ・OD調査
- ・基本ルートの比較検討 (H11年分)

前回の質問に対する回答

- ・将来交通量予測で有明 - 大町線がゼロになっているのは、100台未満が切り捨てになっているため。
- ・1断面と2断面の1万台の差は、穂高町で発生する集中交通量が存在する。
- ・北アルプスゴールデンルートは、富山県と岐阜県で出た発想。基本的には経済界で、商工会議所が力を入れてやっている。北陸道、中部縦貫道、高山から北陸へ抜ける道、松本系魚川連絡道路で北アルプスをぐるっと囲むルート。
- ・ODの概略については基本的に、限られた地域の中の様々な交通の動きを、点で勘定して交通解析にかけたもの。

町長から、松本系魚川連絡道路に関する穂高町の立場の説明

・色々な意見がある中、現状では意見を冷静に聞いて、その中から、将来に向けて町長としての立場で判断していかなければいけないと思っている。これからの日本、地方自治体が、今までと様子が変わってきているということは、十分に認識している。すでに事業ありきということではないので、色々な立場の人から、出来るだけこのことについて色々な意見を聞くようにしてきている。

どこから出てきた話かということだが、町長に就任したのが平成6年12月15日で、その時には、高規格の構想はすでに存在していた。その当時は、まだそれほど大きな問題が降りかかってきたとは認識していなかった。したがって、なりたての町長ということで、幸いなことに当時の建設省に知り合いが多かったので、そこでこの道路について率直な話し合いとか感想を述べた。そんな中で、徐々に問題が広がってきて、就任して7年目である。この道路の問題については、色々な問題を含んでいると建設省の上の方の方々と話をした記憶がある。当時、高規格ということについて、しっかりと勉強していなかったために、漠然と道路のことについて話をした。その時に既に、県の方が来ているのに申し訳ないが、この安曇野というものは自分が育ったところで、20数年留守にして戻ってから、思いも深かった。この道のことについて色々率直に申し上げた。「この高規格道路というものは、地域がいかに活用してもらえるかという道路だ。地域に合った道路を町長に考えて欲しい。そして、いかに地域で活用できるかを考えて欲しい」このように当時の建設省のかなり上の方の方から言われた覚えがある。したがって、その後、具体的に県から説明があった土盛りの道路というイメージは、その頃から全く持っていない。今でも別に決まったわけではない。そういう道路でなければいけないとは思っていない。その当時から既に、このような景観の素晴らしいところであるので、それにあった道路というものが望ましいという話をしたところ、当時、平成7年頃ですが、かなり柔軟な話が

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

出ている、場合によっては無理に立体交差にしなくても良い、平面交差でも良い、という話も出た。その当時は、問題がこれほど大きくなるとは思っていなかったもので、そういうつもりで未だに聞けるというのが現状である。最初の説明が原則論で説明されたことによって、盛り土の高速道路ということが固定してしまったようで、はなはだ残念だと未だに思っている。経緯としてはそんなところ、議会の答弁では、議員さんの質問に答えて、穂高町としてはかなり負荷の高い問題である、ということで、これからどういう道路にしていくかということについては、今後十分討議すべきだ、という答弁をした。そのようなことで、1から原点に戻って、果たしてこの道が必要と思っているかどうか、という質問も出てくるかと思う。当時、もう既にそういった構想があって、大町から波田という話があるということ、町長に就任してしばらくしてから、引き継ぎで受け、初めてこのことに関わった。どこから出た話かということについては、その辺で理解していただきたい。この道路について必要かという問題については、先ほど言った通り、広域の道路であり、他の自治体の事情も色々加味していかなくてはならない。町の中のことだけだったら良いわけだが、道路というのは、どこかからどこかへ繋がっていないと道にならないわけで、穂高町のところで途切れるというのも全体的に見れば大変困ること。そういったことで、みなさんと協調できる場所は、町としても協調していかなくてはならない、ということが1点。それと、当時考えていたが、穂高町の人口はどんどん増えていて本当にありがたいことだが、大町の市長は大変だろうな、といつも思う。将来、今、少子高齢化の時代を迎えている。もうまもなく、今、日本の人口が1億1千500万ぐらいだが、3年後ぐらいにピークを迎えて、だんだん減っていく。私は、若いころ外に出て働いた男だが、出来れば、ここに帰ってきて本当に良かったと思っているが、息子達も外に出てしまったわけだが、本当に若い人がここで生活できる。そういった環境を整えてやりたいという思いもある。少子化になって、私達の息子や孫たちは、おそらく、そう右肩上がりというようなわけには行かないだろう。おそらく、親よりも豊かな生活が出来ない初めての世代になるのではないかと思う。それは私的に言っているわけで、価値観が違えばまた別。いずれにしても、これからの若い人たちは少ない人数で高齢者の分まで背負っていかなくてはならない。その中で、国際的な経済競争はますます厳しくなる、そういった若い人たちが、しっかりとここに経済的な価値を認められて、ちゃんと住んでもらうことも大事だろう。それにはきちんとした規格の高い道路もメリットがあるのではないかと、とも思う。一方で、色々な意見が出ていることを聞いていて、同感できる面もたくさんある。財政状況の問題とか自然との調和の問題とか、特にこの穂高町にはどういう道路を造り上げるのが1番良いのか、これは、一般的な問題も含めて、そういった思いもある。そういった状況の中で、このことについては、じっくりと色々な意見を聞く中で熟慮しなければいけないと思っている。或いは、場合によっては大きく変更される。或いはまた、断念しなければいけないということも有りうるだろうと思っているが、まだその判断をする時期ではないと思っている。そんな状態にいるので、今後は色々な意見を聞いていきたい。もちろん、色々な会合で是非促進して欲しいという意見も聞いているが、同じ様な答えをしながら今までに至っている、という状況である。そんなことで理解していただき、みなさんの色々な思いを聞かせていただければ、はなはだありがたいと思っている。以上で、みなさんにお答えしていきたい。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

町長との質疑応答

・高規格道路がでてきたときに、最初、造るという発想は国営公園を結ぶという発想で出てきたんですよね？

A：私はその様には理解していない。国営公園が二眼レフになって、公園の連絡道路を初め必要だろうということは聞いていたが。

・ナショナルリゾートエリア構想というものがあって、その中で安曇野パーク道路を造ると道路整備組合の文書に明記されているが、それが図面上でぴったりと高規格道路に一致する。

A：ご了解いただきたいのだが、道路の公園間というのは、そもそも出た時は別個だったと思っている。何故かという、二眼レフという珍しいアルプスあづみの公園になったわけで、その時点で、南と北の公園をつなぐ道路がいるのではないかと、ということで、その道は出たのではないかと。

・ある県議が県会で言って以降この問題は出て、ようするに堀金から大町まで、ど真ん中から造るからいけない。生活道路なら何故こんな道路が必要なのか、誰も疑問に思って今のような運動になっている。そもそも発想自体は、高規格道路より以前に何かがあったのではないかと、みんな思っている。

A：公園をつなぐ道が必要だということで、最初に公園がここに誘致されたときからあったと思う。そういう道が必要だということがあったから、おそらく、それを高規格に置き換えたかどうかという発想だったのではないかと。

・その辺の経過については町長は聞いていないのか。

A：特に詳しい経過は聞いていないが、その様に理解している。公園を結ぶ道路とは別に高規格道路は出てきたのではないかと。高規格は、公園と公園を結ぶのではなく糸魚川～松本という構想で、それがたまたま重なった、というふうに理解したほうが良いと思う。

・町長になったのは平成6年ですよね。平成5年の広域道路整備計画という中で広域的な道路ネットワークを造りました。ということで、町長になられる前のことだったんですね。そのころ、松本と浅間テクノポリスというのがあって国際的な施設にしたいと。国営あづみの公園を造って、穂高町は、労働者の保養施設とか、松本の工業団地は精密関係の工業団地にするなど、色々な構想はあったが、道路という話は全然なかった。

A：私も、町長の引き継ぎでは聞いていない。町長の引き継ぎはごく概略、かなり具体的な事業についての引き継ぎで、あとは徐々に勉強していくしかしょうがないわけ。

・おそらく、この道路をつなげるというのは後から出た話だろう。公園は、今から20年近く前の話だから。

・視点としては、一致しているところがある。道路計画は1つのものであって、決して穂高町で分断して、一部分を語って良い問題ではない。町長の言葉の中で2つ、キーワードがある。1つは地域の活性化、発展にどのように寄与していこうかという点。もう1つは、これからの国際的な経済競争が激化していこうか、その中で、今の若者たちが勝っていく、豊になっていくためのものとし

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

て残していきたい、という主旨のことを言われた。この2点のことには同感で、その様であって欲しいし、その様な道路であるのなら、規格の問題など色々あるだろうが、この道路の是非について根本から考えてみる必要があるのではないかと思う。ところが、キーワードは一致するのだが、捉え方が全く相反してしまう。例えば、地域の活性と言っても、今までの資料を見ても地域という言葉自体が非情に曖昧で、小谷まで含めて松本地域である、という地域の中に捉えられてこの地域高規格道路の地域という言葉の概念は規定されている。したがって、地域の活性化と言っても、同一の松本地域の中での相対的な発展はいったいどうなるのか、デリケートな分析や構想を持ったものとは言い難い。地域の発展という言葉には引っ掛かるところがある。もう1点は、国際的な経済云々という問題ですが、日本だけに限定しても、従来型のような消費主体の経済、どんどん生産して消費していくという、循環を右肩上がりにやっていく時代は終わっていくだろう。むしろ、ヨーロッパ諸国に見られるような環境等を考慮しながら、或いは身の丈に合った経済のあり方の模索がこれから進んでいくだろう。決して後戻りすることはなく、今までのものを否定した上で、新しい経済的な方向性を国は模索していく。これらを踏まえた上で、その時点をどこに置いたら良いかということ、20年、30年後。この道路が完成するとされている20年以上先の段階。そこの認識が違っているから、この道路に対する評価がまるっきり変わってしまっている。そこを、もう少し明快に意見交換する機会を持っていただきたい。質問が2点。1つは、意見交換会が今回行われて、穂高では160名ほどの参加があったが、残念ながらほとんど9割以上の方が「この道路は必要でない」という立場で参加している。町長は、意見交換会そのものをどのように評価されるか、ということをお願いしたい。私達は、町民の意見の反映の場と考えているのだが、町長も、その様に考えているのか？もう1つは、現在は周りを見てとか、まだ断念という判断を下す段階ではないと考えていると言っていたが、いずれにしても、極めて不明なことがたくさんある。その中で、あえて、塩の道懇談会や期成同盟会、ルート協議会などに町として参加して積極的に推進の立場を取っているのは事実で、先ほどの町長の言葉とは一致しないのではないか。一方では意見を聞いて決めていきたいと言っておきながら、一方では推進をしているというところに、町民は多くの疑念を持っていると思うので、そのことについて説明していただきたい。むしろ、昨年秋の県知事選挙で田中知事がゼロベースにすると判断したわけで、その時点で、町として、今までと違う立場を明快にするチャンスがあったのではないか。しかし、それがなされなかったことを残念だと思う。

A：後者の問題ですが、促進とか色々な会があって、組長というのは、そういうものに出ていくことも必要だと思う。田中知事がゼロベースにするからといって、町民のみなさん、関わるみなさんが全部それで良いということであれば、田中知事と全く認識が合えば良いと思うが、今までの色々なことがあって尚且つ促進したいという人もかなりいるわけなので、それはそれとして意見を聞いていかなくてはいけないと思っている。それを機会に進み方が変わってきたと、それはそれで良いのではないかと思う。冒頭に言ったのは、そういった意味も含まれていると理解していただきたい。土盛りの高規格道路を、絶対に造らなくてはいけないとは絶対に思っていない、ということを冒頭に言ったと理解していただきたい。道というものについては、何らかのものが必要ではないか。広域の規格の高い道

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

があれば、将来の予測はそれぞれの思いがあり、人それぞれが違うので、完全に接点があり、多くの人が一致するとは言えないと思うが、1つの町を責任を負わせられるものとして、将来的なことも考えなくては行けないという意味で言ったと理解していただきたい。

・意見交換会が、県が設定して、町としてもオープンに行われている。およそ160人が参加して9割以上の方が、この道路は不必要だという立場だと判明している。町長は住民の意見を聞きながら判断していきたいと言っていたが、この意見交換会がどのように位置付けているか、この事実をどう評価するかということを知りたい。

A：それなりに、このような機会がたくさん設けられるのは良いことだと思っている。ただ、賛成の方にも、「あなた、そう言うのなら、もっとどんどん出て行って話してください」というのだが、どうもその辺が最初からしっくりいかないというのか・・・

・賛成の人はあまり出席しなかったのか？存在しなかったのか？それ自体がわからない。

A：存在しないということはない。色々ところで話を聞いている。「是非1つ、今度行って意見をみなさんに話してください」ということを良く言っているのだが。一方では促進の会が開かれ、それに対して、ちょっと待て、もう一度考え直してという会があっても良いと思う。そういう意味では非常に良いのではないか。

・県の方は、この意見交換会の性格を詳しくご存知だと思うが、つまり、賛成でも反対でもない、そういった枠組みを取り払ったところから、もう一度この道路についてみんなの考えを交換して考える土壌を造って、これからこの道路をどうするかを考えていこう、ということから出てきたわけで、そもそも最初から反対の会とか賛成の会とかいう位置付けではない。極めて、県がオープンな形で聞いているわけで、最初から、ここは反対派の話し合いをする場とかいうことではなかった。しかしながら、フタを飽けてみると9割以上の方が反対であるという中で意見交換会は行われている。先ほど町長が言った、住民の意見を聞く・・・一番重要で決定的なことに、町民が自由参加なんですから、自由に参加してしゃべれるわけですから、町民の考えを最も直接反映できる場であるはず。この場に出てきた意見が、穂高町の住民の1つの意志を代弁するもの。その辺の町長の認識を聞かせてもらいたい。

A：この会が、住民のすべての立場の意見かということ、そこまで成熟していないのではないかなと思う。

・何が成熟していないのですか？

A：例えば、促進の方々の、商工会関係の方とかその他の商売をやっている方とか色々な方から色々な話を聞きますから。まだまだ、欲しいと、必要だという人は、まだかなりいると思っている。ただ問題は、道は必要だけれど、安曇野のど真ん中はまずいという方はいるので、ルートについて、道の形状については別問題ということで。関係はあるけれど、一応、そういう意見の人もある。色々な意見の人がいると思いますよ。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

・バブルは破綻している。本質は、国から穂高町ので 600 億もお金がかかるということ。推進すれば 600 億もらって来るという町長の立場がある。悲願と言っても無理だから、それを止めて・・・。

(発言が重なり、聞き取れず)

A: そう言われると、ここへ来て果たして良かったのか悪かったのか自分でも悩む。毎晩・・・。

・町長は、隣の町とかの関係もあると言っている。確かにそれもある。北アルプスゴールデンルートというのが有る。(A: ゴールドルートは、また別ですよ) 急ぐ人は、岐阜から峠を越して来て松本インターを通過して豊科の先から高瀬川のオリンピック道路を拡幅して、あそこが一番金がかからない。溢れないように護岸もしっかりして良い。橋みたいにして家のあるほうに出す必要はない。それをやれば・・・。

A: それも1つの意見だと思っている。さっき建設省の話をしたが、安曇野のど真ん中を通るのは難しい(と言った)。なぜなら、穂高は特に集落が昔から散在していて、どこを通しても集落を分断するような形になるから、そういった点で極めて難しい面がある、という話をした。誰でも思いますよね、実感ですから。

・オリンピック道路を来れば、アルプスもきれいに見える。

A: だから、ルート等についてはこれから決めればよいと思う。

・先ほどの町長の言ったことに関連して、いくつか質問をしたい。先ほどの町長の説明が腑に落ちない。道路全体を見るというのは、当然そうしなければならないと思っているが、他の市町村にとって、どういうメリット・デメリットがあるかということも、きちんとデリケートな判断が必要だと思う。穂高町の行政の長という立場でも、ほかの町のことを考えることは当然。しかしながら、それを以て、意見を言わないということはないはず。先ほど、期成同盟会やルート協議会に入っている理由として、情報をもらいたいということもあると言ったが、この道路事業に関しては、色々な中間的な意見も確かにあるそうだが、最終的に整理していくと、必要か必要で無いかの2つのうちのどちらか。そうすると、中間的な立場というのは、具体的には取りたいようなことを言っているのかなと、読めないこともない。もし仮に、住民の意向をきちんと知った上で最終的な道路の評価をしたいと判断したいと言うのなら、一番、誰もが納得する方法は、まず期成同盟会やルート協議会から一旦は穂高町の名前を削るということだと思う。県はゼロベースということで、参与という立場を返上した。穂高町もゼロベースに立った上で冷静に判断すると町長は言ったので、そういう組織、情報を交換する組織ではなくて道路を造ることを目的とした組織なんですよ・・・、だから、そこから一旦退いて、中立の立場が誰の目にも分かるようになるということが、一番、穂高の住民からの信望も得られるだろうし、町長の言っていた、住民の意見を聞いて判断するという考え方にも、一番ふさわしいやり方だと思うのだが、何故それが出来ないのか、ということに答えてもらいたい。もう1つ。この意見交換会に出ている人以外にも賛成の人が沢山いると言っていた。町長の判断で・・・、何故、道路を造って欲しいと思っている方々がこの意見交換会に出てこなかったのだろうと考えているのかを2つ目として聞きたい。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

A：同盟会から出るということですが、別に、その必要は全くないと思っている。先ほど言ったように、道路がいらないと、もう一切道路はいらないという思いはないということは、冒頭に言った。何らかの道路は将来に向けて必要だと。しかも、他の地域、地域という言葉が曖昧だと言いましたが、穂高を中心にいつも考えますから、穂高と他の地域との広域的なつながりというものは、将来どうなるか予測は難しいことではあるが、まあ、あったほうがいいと思う。道路そのものについては、いらないという立場は取っていない。先ほどから言っているように、道のあり方が果たして穂高でベターな方策があるのかどうかということになっていくかと思う。

・先ほどから、この道路は1つのものであって、一部分だけ切って評価することではないという考えですが、期成同盟会が求めているのは、地域高規格道路という、高規格幹線道路の次に規格が高い新しい概念で出てきた道路を欲して、それを松本と糸魚川の間自動車専用道路として造りたいということ求めている団体。この道路計画は色々な問題があるので、一度白紙撤回するべきだという考えを持っている。では、他に道路がいらないかといえば、そうは思っていない。一部は、バイパスを造らなければいけないところもあるでしょう。

道路を拡張したり交差点を改良したりするということが必要な部分は、実際現地を見てみて、あると思う。そういうものを否定しているわけではない。むしろ、この道路計画があるために、今の既存の道路が持つ現実の諸問題を、より安価により早く解消していくという道路行政が阻害されてしまっているのではないか。何はともわれ、期成同盟会は、そういったバイパスを造ることが目的ではない。あくまでも松本糸魚川連絡道路を造る目的のものだから、町長が言ってきた、この規格に捕らわれないというのは性格が違う話。そこに留まっていく理由にはならない。

A：私は、そういう風に理解していない。すでに同盟会が土盛りの準高速道路と同じ道を造らなくてはいけないと言っていることは一度も聞いたことが無い。ただ、大町～糸魚川間の、糸魚川～松本間の規格の高い道が必要だということだけでやっているだけで、具体的にはそういった話。私は、「ちょっと待ってください。ここにはここに合った道路というものが有りますよ」と、これを主張しても良いと思っている。それは、ちょっとどうかな、と。

・期成同盟会等の要請に基づいて、事実上、県が、どちらが先かは分からないが、この道路について調査を始めている。それが10年まで経っていないが、かなり長い間で。出てきた調査資料は、やはり自動車専用道路で、地域高規格道路の規格の中でもさらに一番規格の高い道路を造るという方向で作業は進んでいる。

A：それは、原則的ではないでしょうか？私なりに解釈すると、高規格道路というのはどこが考え出したかということ、建設省で、県は国から受けてそれを具体化するわけ。最初の、おそらく県のみなさんは原則論で説明せざるを得なかったと思う。

・説明と言っても、建設に向けての具体的な作業に着手している。それをずっと推進しているのが期成同盟会で、ルート協議会は、具体的にどこを通るとかインターチェンジの場所をどこにするとか実務的なところで協議して行おうという性格だと、建設課のほうから説明を受けているのだが、具体化する形で進んでいるわけで、15キロ区間が調査区間に指定されている。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

A：けれども、具体的になっていないわけで、そこまで決めつける必要はないと思う。私は、最初から柔軟である。決めて、ぶつかり合っているという感じがしないでもない。

・調査区間になって予算がついて執行されている。どういう形になって使われたかご存知ですか。

A：知らない。

・そういったことを調べるのにはどこに聞いたら良いですか？

A：豊科建設事務所さんに聞いてもらって・・・。どういう具体的なことに使っているのかということは聞いてはいない。もちろん穂高の中のルートも、まだ具体的に決まったわけではない。

・航空測量が行われたということ、噂で聞いているのだが。

A：それは、色々検討する上で必要だったのだろう。

・行われたわけですね。

A（県）：調査は県の単独事業で行っている。昨年、各町村で説明をして、アンケート調査とかをしようとしたのだが、まだそういう時期ではないということで県も一歩引いて、調査費としてそれを折り込んだ。知事も10月に替わって、そういうことは時期尚早であるということで予算を削りなさいということで、基礎的なデータの整理に減額をしている。それ一件だけの調査費用を昨年は使っただけである。

・1キロ当たり50億円かかるという計画が出ている。しかも、建設省から高規格道路を造れば、このお金が来る。造らなければ来ない。町長が町民のためにここを直すからお金をくださいと言っても、くれない。町の予算で上げてもらうということが大事。高規格道路なんて・・・。

A：この通りに造らなくては、金をやらないなんて言われた覚えはない。

・これでどうですかというのが建設省の方から来て、そこで調整が行われて予算になる。決まるわけでしょう。

A：訂正していただきたいのは、国が言う通りにしなければ、国が言う形のままで造らなければ金をやらないというのは聞いていない。実際、先ほど建設省の話をしたが、ここの安曇野を知ってくれている人がいて、そういった人たちが集まってきて、「ここは平面交差でいいよね。そして、両側に植樹帯を造って・・・胡桃を植えたらいいよ」という話も出ていた。

将来的に見て、穂高に必要ではないですかという話をしている。

・穂高町の魅力は、どこだと考えていますか？

A：この山とそこに広がる田園風景だと思っている。残念なことに、田園風景というのは今や瀕死の状態になりつつある。穂高町にかなりお金を投入して、出切るだけこの田園風景を、やがてつぶれるものであったとしても延ばしたいという思いで色々なことをしてきている。しかしながら、このままでは耕作放棄地が年々増える一方でどうしたら良いかという思いが強い。いずれにしても、専業農家

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

が成り立つかどうかということとは別になるが、農家の人たちが農地として田んぼとして、なんとか少しでも保ってもらいたいと思っている。

・先ほど、若い人たちが戻ってくるのに魅力のある町でないといけなわけですね。

A：戻ってくるというか、ここで若い人たちがしっかりと生活をして、根づけるような場所にしないでほしい

・と同時に、魅力があるからこの町に来る。東京からここに来て20年になるが、なぜここに来たかという、環境ですよ。

A：それはそうだが、現在、若い人たちが都会に出て、なかなか職が求められなくて、学校を出た人たちが帰って来てくれないという事情もある。ここで働きたいという人も、ここで儲けて、まあまあの家計を維持するだけの経済活動が出来なくてはいけません。

・町の魅力というものが自然であるのならば、それを大事にしないでほしい。

A：もちろん。自然だけで食べていければ良いですよ。だけれども、そうはいかないだろう。商業も、バランスというものを考えていかなければいけない。

・穂高西中学校は、安曇野にぴったり合っている。豊科町には、安曇野に合っていない工場もある。そういったものは、どうにかならないか。都会の人が観光に来なくなってしまう。

A：豊科町には豊科町のやり方がある。先ほど言ったように、穂高町の良いところは、いかに未長く田園風景を残せるか、残せないか。どうかなという不安はあるが、いずれにしても、そういったことをやっていかななくてはならない。承知しているとは思いますが、町長になるときの公約に、秩序ある土地利用をしましょうと。それは何のためかと言うと、ここにある良い資質を出来るだけみんなで認識して守りながら秩序ある発展をしましょうと。その前までは、穂高町の用途地域というものがある。本来は、用途地域と言うものがどうして設けられたかと言うと、そこから開発を誘導しなさいというもの。穂高町は、地域外の開発が9割になってしまった。その結果どうなったかと言うと、虫食い開発、スプロール化がどんどん進んでしまった。それが、今になってみると、たとえば下水なんかやろうとすると、ものすごいお金にならざるを得ない。しかも、景観上極めてまずいということで、土地利用調整基本計画というものを作って、4年位かけてやって、それを町づくり条例に立ち上げた。このことは、極めて上位の法律との兼ね合いがある。最初は、みんなから止めたほうが良いとか慎重にやった方が良いとか言われたが、これからの地方分権の時代は、地域に合ったものを作っていかなくてはいけないという思いが繋がって出来た。今、その精神が、例えば大店舗法が改正になって大店立地法にちゃんと取り入れられた。先にそれをやったと注目されている。それによって、多少の規制がかけられるというつもりで作ったので・・・。今の話には、こう答えるしかない。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00~21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(:司会、 :記録者)		

・町長は、促進の人たち方からも色々聞いているわけですが、促進派の人たちの高規格道路が欲しいという一番大きな理由はなんですか？

A：促進派の人たちは、先ほど言ったように広範囲に広がっていますから、そういった人との関係もあるし、それはさて置いて、穂高町に限定して言えば、やはり経済活動。活性化ということにもつながるし、もう1つは、農業をやっている人たちも道が混んできてトラクターが動かせないという話も出てくる。色々な意見がある。大きい意見も小さい意見も色々ある。色々な立場から意見がある。

・1つに集約されるような大きな理由というものはないのか。

A：そういった色々な意見を聞いている。それぞれの立場で色々な意見がある。それを集約するのは、最後にはみなさんでやってもらうか、私が判断しなくてはいけないかということはある。

・賛成派の、道路を欲しいといっている人たちの意見でも、それぞれということですか。

A：例えば、地域の懇談会で牧地区に行けば、「観光シーズンになると混んで渋滞してしまう。何とかしてくれないか」というようなこと。

・道路をどう評価していくか、この100kmが、どういう値打ちがあるか必要か、という評価をするときには、必ず「地域の活性化」という言葉がついて回っている。その中身は何かと言うと、その地域に経済的な効果があるとかいう話。しかしながら、そこ止まり。商工会関係の方と何度か話をしたことがあるが、みなさん、それ以上のことは言えない。つまり、どの地域にどのような社会的、経済的な効果が具体的ににあるのか、どのような中身の効果があるのかということが描かれていない。ただ漠然と、何かあるだろうという漠然とした期待の上に、道路に対する幻想、期待が造成されてくる。何故そうなるかという、今後20年、30年後に私達の生きている経済社会が、どのようにして動いて、変転していくのかという長期的な展望に立った視点が無いからだ。社会というものは一点に立ち止まっているわけではない。どちらかの方向を向いて、いつも動いている。動的な、常に動いている動的なものである。将来への動筋をきちんと見極めて、その中で位置付けて評価できるかという視点が欠如している。先ほどの町長の言葉でも、若い人たちの将来のために、環境だけでなく経済的なものも残したいという気持ちは正しいと思う。しかし、それを補完する中身をもっと具体的に提示する必要がある。道路を造る必要があるという人は、わたしは、それは幻想であると。例えば、道路特定財源の見直しということがある。何故見直さなくてはならないかということがある。一番問題なのは、あの暫定税率。常に延長延長で本来の数倍の税率をガソリンとか重

・量税とかにかけられている。もし仮に、ガソリンの値段が、今の2/3や半分近くとかに税金が下がっていけば、どのような経済的波及効果があるのだろうかと思像する。

色々な将来を見渡した展望というもの色々な形で語っていく語り口がある。あなたは、どういう語り口にたって、この道路をどう評価しているのか、あなたはどうか、といったところできちんとした論議が行われなくては、闇雲に何となく良くなるだろうというだけではダメ。もう1つ、財源の問題。既に県は、年間に一般財源から20億ぐらい出していこうと言っている。しかし、先日の発表では、県はゼロ成長だろうと、あと数年後には予算が編成できないのではないかと噂されている。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

その様な中で、どういうふうにしてお金を工面していくのか。それが県民税だろうと、国の税だろうと、何らかの間接税だろうと、それは税の種類を問わず、みんな私達の負担である。すべての負荷は私達に関わってくるので、いかにして負荷を少なくして、私たちが経済活動に参加していく機会を拡大していくのかということに立って、将来の経済展望とかも語ってもらいたい。ただ闇雲に何となくというのではなく、もっと具体的で突き詰めた論議が必要だと思う。もう一点、さっきから納得がいかないのは、それでも尚且つ期成同盟会にいるということで、潔くそこから外れて、穂高町は孤高の立場に立つべきだと思うので、その辺は、まだまだ検討したほうが良いと思っている。

・国からお金をもらって、公共事業が地場産業になって、おかしくなっている現実がある。町長は民間から来られた貴重な町長。頭の中ではきちんと分かっているのに、立場上、2期目になってだんだんおかしくなってきた。1期目はすごく良かったのに。学校にしても、自分のお金だったら、ちゃんといいことをやる。よそからお金をもらってやるという話になるとおかしくなってしまう。そのところを、みんなのために心からお願いしたい。

A：先ほどから言っているように、今の問題は町内だけの問題ではない。そういった判断を、私としてはしていかなければいけない。穂高だけで生きていけるということはありません。

それから、先ほど、将来に対する展望に具体性が無いと言われたが、それを出来る人はいますか？あのバブルの時代、ジャパン・アズ・ナンバーワンと言われた時代に、非を唱えた学者は誰もいない。今頃になって、あの時にああ言った、と言う人はたまにいますが・・・だから、なかなか難しい。言えることは、少子化がどんどん進んでいるということ。やがては、人口の3人に1人が高齢者人口になるということ。その時にいったいどうしたら良いかということ。それらを含めて、立場として、色々なことを考えていかななくてはならない。

・県のほうも、知事がゼロに戻せと言っているのに、ゼロに戻っていない。言ってやってください。

A：財源の問題は大きな問題だと思う。これから必ず出てくる。当然です。

・これから選挙に勝てなくなりますよ。本当に。応援する気が無くなってしまいます。

A：そんなことを言わないでください。かなり柔軟な思いでやらせていただいていますから。いつでも聞きますから。

・議会では、この問題は何かありますか？こんな話があるといった程度で。

A：議会のほうは、もっと論議を深めていただきたいと思うが、どちらかという、尻込みしているのかなと・・・。どんどん聞けば良い。思っていることがあったら・・・、議員は自分を出しても良い。合併についても、自らもっと論議を盛り上げてくださというのだが、私らが言うとうまく行くものもいなくなったり、みなさんのせっかくの思いを潰したりしかねないから・・・。そこが違うと思う。

・掘金のかたは公園を持つようになるから、穂高とは立場が違いますよね。

A：地域的な特質も大分違う。あそこは、山際があまりない。私どもの山懐は広い。集落も広がっているわけで、そこで色々な問題が出てくる。山麓もおおぜいの方が住んでいるという状況ですから。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

A：私は、今、実はゴミのこともやっている。知事に委嘱を受けて。これも困る。ゴミゼロを目指していかなくてはいけないのは当然の時代の流れで、出来るだけゴミを少なくする。しかし、はたして本当にゴミをゼロに出来るのか、焼却場を無くすことが出来るのか、最終処分をなくせるのかと、そういったことで、みなさんと色々な話し合いをしているのだが、勉強になる。私も知らなかったことをいっぱい勉強するようになって、ありがたいことだと思う。

・穂高町の現状の道路にすべて歩道を完備するだけで世界的に注目される町になると思うのだが。そういう考え方、立派な高速道路を造れば地域が活性化する、経済的活動が活発になるというのは、これからこの道路が出来たとする20年ほど後の日本を考えたときに本当だろうかという疑問の方がはるかに大きい。何か、考え方を変えてみたらどうか。

A：それぞれの立場だと思う。ますます人間の活動は広域化していかざるを得ないと思う。少子高齢化が進むから。1つの中で、ほとんど出ないで済まされることは無いのではないかと思う。また、交流がもっと進むと思う。

・短時間でしなければならぬ時代になっているかな、と。

A：短時間というか、将来をどうみるかということ。歩道の問題ですが、実は、制度上、歩道は町単独のお金を使うのが原則。県道などの事業と一緒に歩道を造っていただくと県から、国から若干補助が出る。しかし、現状の穂高町の歩道はすべて、中学校の前とか北小のところなど、町費、町単費用でやらなくてはならない。なんとか、造りたいと思って一生懸命やるわけだが、用地の確保が極めて難しい。北小のところも、なんとかやらせてくださいということをお願いしているが、これも何年かかるかという話。

・個人的には、歩道を造る運動というのを作って、そのために寄付をするなり、自分の土地を町に・・・、そういうことを全町民的に出来たらよいと10年来思っているのですが、なかなか・・・。

A：そういう方々ばかりだったら・・・。歩道を造るために地権者のお宅に何回も伺いますから・・・。

・町長は、広域化をこれからするというが、広域化すればするほど地域の独自性が無いと人は来ない。日本中みんな同じだったらどこに行っても同じ。そこのところが意見の食い違うところ。

A：今のは、1つの方向としてよい。現実的な理解をしてもらうために話をした。

・広域化するということがみんなが来るということは別。独自性が無くなったら来ない。大事な財産を失ったら誰が来ますか？大事な財産を残すようにしなくてはいけないと言っている。歩道を欲しいということは町長も思っているし、みんなも思っているから、それで良い。気持ちを汲んであげればよい。

A：穂高町に歩道を造るだけで済みます、ということではないと言った。

(発言が重なって聞き取れず)

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

・町長は、穂高町の将来ビジョンで基幹産業はどのようなものにしていくつもりで取り組んでいるか。
 A：現時点では、何を基幹産業にすべきかという判断は極めて難しいと思っている。ここの田園風景が素晴らしいから、今までは農業が基幹産業だと言ってきたが、今は、林業等に次いで、本当に困った状況になっている。というのは、4割も生産調整で減反させられている。もうこの減反政策を30年もやっている。尚且つ、減反をしてお米の値段が止まればよいが、毎年毎年、安くなっている。これでは、お百姓さん達、田んぼを作れと言っても無理。土地利用調整基本計画を作って、ここは農業保全地域と決めたら、おれらを殺す気かと言われた。それを、どうやって救ってあげられるかということ。

・農業が将来的な基幹産業に難しいということになった場合に、例えば、観光を含めた商業なのか、工業なのか、松本のベッドタウン化していくのか、そういったことはどのように考えているのか。
 A：今の判断では、特に今、こういう経済状況になっている。穂高町の工業者の人、小規模な工業が多い。下請け、孫請けの人。しかしながら、結構、実力がある人たちの集まりである。先日、調査をしたが、想像以上に悪い。本当は、要望があって工業団地を作ろうという話があって、入るところはこれくらいと見越を作って始めようとしたけれど、今、途端にこうなってしまった。で、ちょっと待ってくださいということになって、先送りの状態。穂高町の基幹産業、広大な北アルプスがありますから、この景観は特質。ただ、それだけで観光でみんな出来るかといえば、これまた難しい。今はどこの自治体でも観光、観光自治体ですよ。温泉を作ったりして、それぞれが激しい競争をしている中ですから、今、その判断は本当に悩んでいる。良い知恵があったら貸して欲しい。

・道路の問題とも深く関わってくると思うので、何か道筋がつかないと、道路のことも判断するのが難しいと思う。

・道路が仮に建設ということになった場合に、町の他の道路、県道だけをどうにかとか色々な問題が出てくる。負担が増えるということも事実だと思う。下水道事業とか色々建物とか計画されているようですが、せめて町民税だけは上がらないようお願いしたい。特に、下水道はとても心配している。

・下水道のことで。どこがやったか分からないけど、舗装が悪い。ガタガタいう。烏川の方に行くと、ものすごく行政が丁寧でびしゃっとしている。それが分からない行政はいいかげん省きたい。あれは結果を見て、A、B、Cをつけて、いいところに仕事を回し、発注するようにしたほうが良いのではないか。やり直すとか。

A：そのことは言っている。全般的にひどい。そう思っている。

・町の水道を使っている。温泉も引いている。温泉公社は上下水道で6000万円も赤字を出しているという。今度は80万円で更新だと言う。何とかしてください。権限を持っているのだから。

A：温泉は温泉ですから、ありがたいと思わなくては。

A：お答えするたびに、次期の私の評判悪くなっていく・・・。

(時間のため、町長との質疑応答終了)

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

資料をもとにして、質問と意見の交換

・費用便益のところ、大町以北のところをきちんと出していただきたい。将来予測の推定通行車両も出ていると思うので、それも出していただきたい。

A : あれば出します。

・以前出された資料の大町～波田のA、B、C、3ルートにした場合の推定車両台数。それに関連して大町がどうなっていくのかということがある。大町以北の場合には、並行して走る道路の数も少ないので、それほど困難な調査にはならないはず。千代田コンサルタントでも、その辺のことは踏まえていると思う。道路の事業費についてはシミュレートしたものが出ている。小谷方面ではこちらの方の用地買収費を含めても、3倍ぐらいの額になっている。そういったことが出ているので費用便益も当然出さなくてはならないはず。道路計画は一部だけを評価して計画されているわけではないので、全体を評価されているはずですので、必ずあるはず。無ければ作らなくてはならないと思うので、よろしく願いたい。

・昨年の3月に公文書公開で出された資料と付き合わせてみた。伏せられていた部分が今回公開されて、非常に興味深く見させてもらった。これを見ると、造る理由になるような、かなり良い数字が出されていると思う。

それにも関わらず、何故、昨年は伏せられていたのか。そちらの方が、返って疑問に感じる。

A : 例えば、伏せていたのは、あの時点ではルートがそもそもありきで、未成熟な情報を出して混乱させてはまずいというのがあった。いわゆるパンフレットのような 様な形で出した。公文書公開もその時点では伏せさせてもらった。今、このように各グループに分れて意見交換会をやっている中で、ルートありきのようなことは、もうみなさんの頭の中にはないということで、行政のサイドとして今まで検討して来たことはこうですよ、というものは出しましょうということで、今回出した。

・検討されてきたルートの中で穂高町の部分もあるのだが、穂高町の建設課の方とかも知っていたのか。

A : 基本的には、県サイドで作っている。計画に参加してもらいような関わり方は多分してもらっていないと思う。今まで作ってきたのは、こういうルートを推進する立場で昨年まで事業を進めてきたので。昨年から、みなさんの意見を聞いて、という形に変わってきているので、それまでは行政サイドとしては進める立場できていたから、資料は、そのところで止まっている資料だから、見れば、そういう感じに見えると思う。

A : あくまでもこれは1つの想定である。例えば費用便益を出すには、ある程度大きな数字を出さなくてはいけない。1キロ 30 億から 50 億という一般的な例はあるのだけれど、それを持ってやるのはあやふやということで、精度の高い数値を出すには、想定をしてそれに基づいて検討をして出すというものがあるので、1つの想定ですから、それを出していくと、それがあたかもルートとして決まったかのように取られるので。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

・県の内部で検討するために必要だったのですか。それとも、計画路線、調査区間に指定する作業として必要だったのですか。

A：県内部です。

・費用便益の中で入れられている経済指標という成長率のものがあると思うのだが、何%ぐらいでやっているのか。OD調査で、H32年の予測が出されているが、実際調査をしたときの生のデータを欲しいと話した。ODを当てはめていって将来予測をした数値ではなくて、何年か前かにOD調査をやった、その時の生データを欲しいということ。H32年のODですが、ぱっと見ただけで20年後ですから、今見ると通過車両と生活車両の比率を見ると、3/4近くは生活車両。いわゆる通過車両は極めて少ない。大町建設事務所の方も、道路建設の重要な目的の一つに通過車両と生活車両の分離があり、それによって交通事故を減らすことが出来ると言うのだが、これでいくと、通過車両がどれだけ建設される道路で行くのかということ、極めて少ない%でしかないのではないかと。20年後の予測ですから、現在はもっと違うはず。桁が違うのかもしれない。穂高は1万8千いくつだが、松本とか波田を除いて近隣市町村が1万3千くらい。穂高と合わせると3万以上。それに松本の生活圏として考えるのであれば、さらに圧倒的な比率で生活車両が占めている。これによって通過車両をそちらに流してという論法は成立しないのではないかと思う。

A：OD調査は国でやっている。我々にも、推定だけで生調査は出してもらえない。トリップ数とか出ているだけで、実測のOD調査をして、人口とかGDP、いわゆる成長率を加味してトリップ数として割り出して、将来交通量予測になっている。OD調査のものがいつのものかは分からない。我々の予測で行くのが、平成6年の交通量センサスの調査のデータを入れたもの。国から提供してもらった資料をインプットしているだけ。

・資料でAが二重丸、Cが三角というのはどういうことですか。

A：行政サイドで松本系魚川連絡道路を位置付けている中で、利便性とか経済効果とかそういうものを加味した場合に、Aのルートでやるのが一番地域にとっての合理的なものであると。みなさんの意見をお聞きしたわけではなく、行政が進めるためにルートとして想定して検討したら、これが一番良かったということ。

・例えば豊科から大町までの間で、AルートとCルートではどのくらいお金が違うのですか。前回の資料と今回の資料では数値がぴったりと合わない。

A：前回出したデータの中の数値を足せば出てくるので、次回までに用意していきます。数値は出し方の問題でぴったり合わない。

・Aのルートには中部縦貫道との連絡が書かれているが、中部縦貫道が出来ないことには全部ご破算。

A：一応、中部縦貫が出来るという前提が無いとものを始められない。

・今の状況では、とても現実味が無い。

A：前提は中部縦貫があるということで作っていますから、それはそういうことで、資料を読んでもらいたい。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・比較する場合に、まだ分らないものを仮に出来たらというふうで言ったら、比較にならない。
A：前提が無ければ評価は不可能。
- ・あるもので比較しなければ、比較にならない。
A：これを作ったときには中部縦貫は出来るということでやっている。それがおかしいということになれば、意見として覚えさせていただく。

- ・中部縦貫は非常に大きな計画で、非常に重要なポイント。でも、その他にも、バイパスが出来るとか、数年前にオリンピック道路が出来るわけで、これが20年先の間に何もバイパスを造らない、道路の改良工事もないという前提で行われている。このような形での価値、道路の評価をしていくという手法について、県自身はこのままで良いと考えていますか。
A：この時点で確実に、国が中部縦貫を整備区間と設定しているので、出来るだろうということで前提に上げている。大型のものについては今のところ、しっかりとした計画にはまった道路整備5箇年計画の中にあるとか、都市計画決定されているとかいうものが無いので上げていないということであって、これから先造る可能性は当然ある。理論としては分かるが、作った時点ではこれだけということで、1つ1つ決めていかななくては決めようが無い。県の長期計画に入っているものは入れている。そのための県の計画で、そのための整合性を取っている。その他にも、オリンピックの工事のように急遽長期計画に無かったような工事が出てた場合には前提としても変わることがあるかと思うが、県の長期計画、中期計画との整合性を取っている。

- ・松本が日本の中心地、国会が来れば高規格を造っても良い。今、高山の方からトンネルを開けて、あれは糸魚川に抜け構想で造ったのではない。自動車は東京に向っている。都心に。日本の中心地に。松本のインターで乗って新潟に行くなんて人はいない。みんな東京に向っている。糸魚川の方は長野抜けて行ったほうが早い。こんな山麓線を計画するなんていう馬鹿なことを。もっと道路を広くしたいのだったら、オリンピック道路を広げたら良い。それには扇大臣が反対するというが、あそこは50億円かかることはない。家はまばらで、横は河原だから。あの川は満杯になって溢れるほど流れてこない。あれをちょっと拡幅すれば安く上がる。わざわざ山麓を通っても観光にならない。オリンピック道路を通れば観光になる。そんなに山麓に固執することはない。

- ・先ほどの中部縦貫道のことに関連するのだが、今、国の方で高規格道路、特に有料の高速道路について見直しをし小泉首相が進めているが、中部縦貫道は今のまま行けば当然見直しの対象になると思う。そうなった時には、当然、松本糸魚川連絡道路も変わってくる。
A：波田インターまでは都市計画決定されている。波田から先の上高地に向っていく部分は検討中だと聞いているが、都市計画決定されたものは歴然として残っている。その辺を国として・・・
A：今、確かに色々出てきているが、国レベルの相当大きい話なので、今ここですぐそういう風になるのかどうかということは、ちょっと・・・

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

・波田までは出来ることは確実だという前提で話を進めますが、あなた自身が糸魚川とか白馬まで行くのに松本から出て波田まで回っていきますか？

A：個人的な話で、便利なほうを通る。

A：一般的に言えば時間短縮だと思う。早く目的地に着くほう。

・先ほど、中部縦貫道は国レベルの話なのでと言われたが、松本糸魚川連絡道路も国レベルで計画している話のはず。

A：国というよりは、事業主体は県がやる可能性が相当強いという意味では違います。

・ただ、国から地域高規格道路として打診があって、県のほうから何ヶ所か候補を上げて、それを関東整備局が認可をしているわけで、高規格道路を補完するための地域高規格道路という形でネットワークの線を引いているはず。そうすると先ほどの答えは違ってくるのではないか。

A：中部縦貫道は高速道路クラスで有料道路ですよ。地域高規格道路は管理主体、県とかが整備する無料の国補事業による道路。その意味で違うと。

・補完する元の道路が無くなってしまったら・・・

A：我々としても国としてもネットワークとして今まで必要だと考えてきた。

A：ちょっと申し訳ないが、今みたいなのが去年までのやり方で、それがいけないということでこの会が始まっているので、要望としてそういうものを出していただきたいところから始まっているので、主旨が、こういう立場ではなくて、要するに二項対立ではなく要望としてはそういう形で出してもらいたいということ。そのための聞く会ですから。

・あなた方が頭を切り替えなかったらどうしようもない。全然切り替わっていない。言っていることにちゃんと答えなさい。(やや騒然)

A：私は、説明をしているだけですから。

・通行量の予測のことで、いつのどういうデータをインプットしたかということを書いて欲しいということをお願いしたのだが、聞いていないので、次回にお願いします。

前回の説明で、費用便益でも何でも数値の高さについて意見を出したところ、これは造るために出している数値だから、ということだが、先程からの話で中部縦貫道など関連することがあるが、そういうものがある以上、算定するための基本的な考え方を県独自でとりまとめることは出来ないのか。例えば、他の要素を加味するとか、加味しないとかということも含めて・・・

A：そういう意見があるということで、再調査をなさいという要望があったほうが動きやすい。今までの資料として持っているのはこれしかないの。

・20年後にこの辺がどうなっているのかわからないが、例えば、路線バスという話。穂高でも、路線バスを造りたいという話が、赤字であるからということで立ち消えになってしまった。車を使った方が便利であると。ところがいつか路線バスを走らせなければいけないような時代が来るかもしれない。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

しかし、現状では一家に2台も3台もあるというのでは、バスに乗るよりも自分で車を運転してスーパーに行ったほうが便利だ。路線バスはいつまでたっても出来ない。赤字である。そういったときに、県の将来ビジョンとして、路線バスにみなさん乗りましょう、というような発想の転換を促すような企画とかも含めて、県が将来を見通したビジョンというものを当然こういう道路計画の中に入れていかななくてはならない。これは、将来の県政の進め方なので単に道路建設課の話ではなくて、総合的なプランナーとしてきちんとした企画をどう位置付ける、これが本来の事業の進め方だと思う。そうやるべきところをそうではなく数式に当てはめて、利用台数がこうなるからこの費用便益はなかなかいいですよ、ということでは、なかなか説得されない。県がこういう道路を評価したり将来ビジョンを作っていたりするときの1つの手法を、もう少し根本から改めていくということはとても大事だと思う。そういうことを、部長級会議とかで出されて県はこうあるべきだと、県職の方から出してもらいたいと思う。

A: それについては、全国統一の評価項目があって、その中でやっているのだからちょっと・・・やれることはやっていくが。実際、本当にこれから公共交通に転換していくのかその見極めが大変難しい。政策としてあっても、実際にそれが個人の行動に結びつくかどうか。

- ・実際にその政策をどのように具体化するか進めていただかないとわからない。

- ・もう、こんなのはいいですよ。造りたくてしょうがないのだから。こんなのはいくらやったところで同じこと。

- ・中間発表ですが、いつか決まりましたか。

A: 一応12月早々ということで、グループ毎で意見をまとめて、その場で発表していただく。それをするので、色々なグループの方がそれを知ることが出来る。集約されたもの、発表されたものを知事に取り上げ、出来れば公報に載せて周知していきたい。それまでにこのグループの意見集約、整理をして欲しい。

- ・あくまでも中間であって、最終ではないということをはっきりしないと難しい。

A: グループによってはこれで終わりというところもある。全体の中でどうなるのか、もう少しやるということなら、やるということになると思う。

- ・道路建設課長の話では、意見交換会の中では、次の舞台になる道路懇談会のようなものとか、意見交換会の意見の生かし方、集約の仕方も論議して欲しいと言っていた。いい加減にするわけにはいかないので、それをきちんとやらないと、12月初頭の発表はあくまでも中間ということではなければならない。それを最終とするのならおかしいと思うので、賛成しかねる。

A: いずれにしても、みなさんが、どういうお互いに検討するかを知る機会としては良いと思う。意味はあると思う。

- ・道路懇談会については、何か腹案のようなものはあるのですか？

A: まだ具体的なものはない。構想ではあるが、今の段階ではない。今年度中は無理。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

・この意見交換会の意見を、どういうふうに判断に位置付けていく予定なんですか。

A: まず、穂高の場合は160何名の応募があって、常に出ている方が100名ちょっと。そういうなかで3万人を越す町民のみなさんに、こういう問題があると投げかけたほうが良いと思う。こういうことを検討していると。全然関心を持たない無関心な方もいるわけだが、穂高としてこういう問題が出てきて検討しているということを、我々はチラシを配っただけでこういう反応があったわけだが、そういったことはやったほうが良いと思う。

・反対署名運動に協力してもらえますか。

A: 行政はそういうわけにはいかない。

・例えば、つい先日も、北安曇郡の市長村長が集まって知事の方へ松本系魚川連絡道路の建設促進に行った。期成同盟会も年に1回か2回、総会をやって氣勢を上げているが、そういったのと、今回の意見交換会は、どういった位置付け考えたら良いのか。

A: 例えば、南安はどちらかというと基本的に反対という意見が多い。大町行くと半分くらい。さらに北に行くと賛成が多い。地域の温度差もあるが、行政は長い距離を何らかの形で、今までの考え方で繋げようと思っていた。こういう地域の温度差があることをどのように反映させていくかということ。とにかく、問題を把握しないことには、どういう問題があって、どういう意見があって、どうしたら良いのか把握するには、今までは経済団体とかの意見しか聞いてこなかったが、みなさんの意見を直接聞くのは今回事業を進めていく上で初めての試みなので、貴重な意見として聞いていかなくてはならないし、知事も聞きなさいと言っている。知事は、まとまったものを上げて判断すると思う。そういう中で、手探りの状態ですぐ解決し結論を出すといったものではないので、1つ1つ積み上げていくものではないか。

・オリンピック道路が豊科から大町の高瀬川沿いに通っているが、もしあれを拡幅するといった場合に、今の県の土木技術で、拡幅した場合に技術面で問題があるのか。

A: 技術面だけではないですね。

・技術面は問題ないのか。たとえば、川側に道路を拡幅した場合にどうなのか。

A: 技術面だけでは無い、難しい問題がある。河川管理上の問題がある。

・河川管理上は、川側へはみ出すのは認められないということか。

・それは行政的には絶対に解決できないものなのか。

A: そういうケースが無い。河川法とかで構造的な縛りというものがある。そこが解決できるかどうか。

・今の堤防の高さで難しいのなら、2階建てにしたらどうか。

A: それは出来るかもしれない。戻って調べてみないと何とも言えないが。

・そういうことに頭を使って、と言っているんですよ。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 9日(金) 19時00～21時30		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

・今まで出来なかったことまで突っ込んで、もう一度、今の時代に合ったことを、そういうことまで含めてやっていかなくてはならない。

A : 今のも1つの案。そういうものを聞く会です。

・建設省時代に候補路線として波田から通っているが、仮に豊科に起点を変えた場合に、同じ事業の継続ということでやっていけるのか。

A : 松本系魚川連絡道路として、国の方の見解を聞いてみると、縛りとしてはない。

・以前は大丈夫と聞いていたのだが、ある県の方から、それはもう一度最初から出発しなくてはならない。候補路線の認定からやらなくてはならないという話も聞いている。どれが正しいのかということがある。

・法的な問題であきらめずにやって欲しい。

A : そういう要望があれば国に対する出来るか出来ないかという問いはする。

・次回までに、河川法との兼ね合いのことと起点の変更の場合について調べてもらいたい。6グループとしては論議は中間。中間発表があるとすれば、何を6グループとして発表するか考えなくてはならない。それを次回に行いたい。

次回の開催は11月29日木曜日に、役場の第2会議室で。